

研修報告

議会運営委員会

4月17日～4月19日

● 研修目的

△災害時における議会の対応について

1日目

● 研修地

△宮城県霞目航空基地

● 研修内容

航空基地内で東日本大震災発生時からの模様と救済状況の説明を受け、被害の大きさを改めて実感すると共に、自衛隊の活躍を通し、連携の大切さを学んだ。

引き続き、仮設住宅に移動し、自治会役員始め被災者の生の声を伺う。行政への不満や未来への不安感から、住民と行政の格差が大きいと感じた。

その後、海岸に移動し慰霊塔で顕花し、ご冥福と復興を祈念。

海岸には、たなびく黄色のハンカチに託した「早く帰りたい」とのメッセージは、荒涼とした現地と反して非痛感の象徴のようだった。



仮設住宅にて

2日目

● 研修地

△宮城県山元町

● 研修内容

山元町は、人口約14,000人、面積64km²で宮城県最南端で、東は太平洋に面している。

山元町の震災被害は大きく、人的被害は死者630人、行方不明2人。世帯数は、震災前約5,600世帯だったのが、

町内家屋の半分以上が全半壊や流出し、現在世帯数は4,900世帯で、約2,000人が町外に転出した。

議員の殆どが、親族を亡くし、自宅が流出の被



害にあったと伺う。

山元町の庁舎は1階が浸水し、地震・津波で使用不可状態のままで、敷地内に仮庁舎（プレハブ）で庁舎機能を存続していた。

研修は、プレハブ庁舎2階の一角で、山元町の議会運営委員全員と、災害時と現在までの議会対応と基本条例について学んだ。

引き続き、山元町内を現地視察し、高速道路の東西で津波被害に格差を実感した。

高速道路が津波の威力が減少。道路で助かった命も多かったのを重視し

未来図には線路を嵩上げし道路を作り、2本の道路で津波被害の減災対応を計画している。

山元町の海岸では、ブルドーザーが動いていたが、ぼつんと残った家は傾き、空洞のまま。ライフレインの回復は、電気が10日後、水道は約1ヵ月後から復旧し始めたが、瓦礫の山がそこそこにある状態では、復興は程遠い感じがした。

また、海岸近くの小学校では3時過ぎで止まつ

ままの時計やコンクリートが根元から折り曲がった校舎の柱に津波の破壊力に驚愕した。震災

直後、3階ロフトへ子どもたちを避難誘導し、全員が助かったエピソードに、責任者の判断が生死を分ける事実を目の当たりにした。

これまでも、山元町とは松前中学校文化祭での特産物の販売交流を始め縁ある町これからの交流を深め、できる限りの応援をしていきたい。

このロフトで子どもたちは助かった



2011.3.11 止まったまま